

# あわら市 小中5校へ統廃合 施設再配置計画案 35年度までに

あわら市は25日、2055年度までを期間とする「公共施設再配置計画」の素案を公表した。少子化による児童生徒数の減少に伴い、35年度までに小学校を現在の7校から4校、中学校を2校から1校に統廃合する方向性が示された。

(黒田美紗)

市は将来、公共施設が適切な機能を果たしていくよう16年度に「あわら市公共施設等総合管理計画」を策定。昨年11月に、この計画を基にし

## ◇…解体方針の施設…◇

- ①旧芦原庁舎(3階部分)
- ②二面元村団地
- ③二面温泉団地
- ④国影団地
- ⑤市文化会館
- ⑥JR芦原温泉駅公衆トイレ
- ⑦馬場団地
- ⑧稲越団地
- ⑨稲越第二団地
- ⑩金津B&G海洋センタープール
- ⑪矢地駐輪場
- ⑫中川駐輪場
- ⑬瓜生駐輪場
- ⑭劔岳グラウンド

た同再配置計画の策定に向け、有識者や市民代表ら11人からなる検討委員会を設置。市内の18歳以上の2千人を対象に市民アンケートも実施

し、計画的な統合や複合化、廃止などの方向性を議論してきた。

市内の児童生徒数は、合併時の04年度は2851人だったが、本年度は1940人に

## 14施設「解体」市文化会館や市営住宅

あわら市が25日に公表した公共施設再配置計画の素案では、耐用年数や利用頻度、代替施設の有無などを踏まえ、全143施設(14万824平方メートル)のうち市文化会館、市営住宅など14施設を「解体」とした。

「解体」の方針が示されたのは、市文化会館や金津B&G海洋センタープール、市営住宅6棟など。

まで減少。2016年に吉崎小と波松小、17年に新郷小が相次いで休校した。

各校の改修時期などを踏まえた市の試算では、36年度に中学生は495人(1学年165人)、児童数は45年度に金津地区が537人(同90人)、芦原地区が272人(同45人)などとなる。

案では、細呂木小を金津小に、北潟小を芦原小に、伊井小を金津東小に集約。本荘小

は維持、中学校は2校を統合し、校舎を新設するとした。このまま少子化が進んだ場合、細呂木、伊井、北潟の3小学校は複式学級を避けられない見通しで、よりよい教育環境を整備する狙いがある。

いずれも今後、地元と協議を行い、26、35年度の統合や建て替えを検討するとした。

市は「計画は10年ごとに見直すため、変更もありうる。慎重に進めたい」としている。

## 文化会館や市営住宅

1970年築の市文化会館は、2015年に行った耐震診断で、大地震で柱や壁に大きな被害が生じる恐れがあるC判定だった。利用率は14、18年度の平均で約46%にとどまる一方、年間約940万円の維持管理費や借地料がかかっている。温泉旅館内のホールなど民間施設の活用や公民館との複合化も検討し、26、35年をめどに「解体」する方針。

市の試算では、解体や統合により延べ床面積4万7196平方メートルの削減となり、維持管理やランニングコストを約65億円縮減できる。同再配置計画は策定後も10年ごとに見直しを行う。

同計画は8月7日までパブリックコメント(意見公募)を募り、意見を踏まえて9月に策定する。素案は市ホームページや市役所政策課、市民課、芦原分室で閲覧できる。問い合わせは市政課☎0776(73)8005。(黒田)